44
2015.09

新潟市建築設計協同組合　（官公需適格組合）
Niigata City Architects Union

MUTSUBI

目次

1．ごあいさつ

2．委員会報告

総務委員会　企画委員会　技術委員会　住・環境委員会
業務委員会　構造委員会　設備委員会　次世代委員会

3．作品紹介

「新潟市立沼垂小学校」　㈲三善建築設計事務所

4．事務所紹介

㈱ノア設計事務所

5．趣味のひろば

Ｊ・ツカサ設備設計　桑野　仁司

index

NcAU：Niigata city Architect Union
新潟市建築設計協同組合

目次 ・・・・・ 1

ごあいさつ（機関紙「睦び」４４号） 理事長 角南 邦彦 ・・・・・ 1

委員会報告
- 総務委員会 ・・・・・ 2
- 企画委員会 ・・・・・ 2
- 技術委員会 ・・・・・ 3
- 住・環境委員会 ・・・・・ 3
- 業務委員会 ・・・・・ 3～4
- 構造委員会 ・・・・・ 4
- 設備委員会 ・・・・・ 4～5
- 次世代委員会 ・・・・・ 5
- 技術委員会資料 「五十田 博氏 略歴」 ・・・・・ 6

作品紹介 「新潟市立沼垂小学校」（有）三善建築設計事務所 ・・・・・ 7～8

事務所紹介 （株）ノア設計事務所 ・・・・・ 9

趣味のひろば Ｊ・ツカサ設備設計 桑野 仁司 ・・・・・ １０

ごあいさつ

新潟市建築設計協同組合 理事長：角南 邦彦

世界的な異常気象がニュースから流れ、新潟もこの夏は33度を超す日々が続いておりましたが、此処のところ朝夕は少し落ち着いて来ました。皆様におかれましては如何お過ごしでしょうか。

さて、5月の今年度総会を受け、6月には合同委員会を開催し、8委員会1部会から理事長諮問事項の討議を行って戴きました。どの委員会も将来の組合を見据え、素晴らしい討議結果報告会となりました。

今年度からは耐震診断、耐震補強などが激減しています。組合として今後増加すると思われる学校の大規模改造に焦点を当て、ガイドブック作成に力を注いできました。これは、どの事務所が設計しても同じ視点、同じ工法で設計が行われ、高い内容の大規模改造設計図書を納めるためのものです。ガイドブックの内容をすべての事務所に浸透させる必要があるため、全社の実務担当者にお集まりいただき、学校施設「大規模改造」説明会を開催致しました。これを受け、今後の受注に向け執行部、理事共に頑張ってまいりますので、皆様に於かれましては倍旧のご支援をお願い致します。

総務委員会

委員長：本間　裕之

組合員の皆様には日頃から組合の事業にご協力頂き感謝申し上げます。

今年度の総務委員会の事業内容の中からいくつかの内容について活動状況をご報告いたします。

1．平成27年度予算（案）について検討

平成27年度の予算編成に関する主要な事項の確認を行い、受注予想・賦課金および組合手数料の検討を行い、それぞれの件について理事会に提案する内容を決定しています。

その結果、今年度の予算、賦課金、組合手数料の承認を5月22日の総会にて承認していただきました。

平成27年度 通常総会風景

2．工事設計・監理業務の配分検討について

今年度受注が期待される学校の大規模改造設計の配分については、現状の配分比率に該当しない物件が多数存在することが考えられますが、各物件の仕事内容及び作業量等が不明のため、実際の設計業務を注視しながら、業務委員会と共に対応を行う旨確認をしました。

3．積算ソフトの継続的使用への対応について

現行のエクセル2003Var.（902C）に加えて、2015Var.（1505）が組合にあります。物件によって使い分けができるようになっていますので、組合員の皆様の活用を図っていくことにしています。

4．全員懇談会の開催・運営について

2年続けて開催されていませんでした全員懇談会を、11月26日（木）ゆもとやで市長をお迎えし開催することとなりました。内容については今後の委員会で検討する方向で進めることにしています。

企画委員会

委員長：丸山　健一

当委員会の最重要課題として取り組んでいる、“新潟市が必要としている職能としての「まちづくり」の検討”について現在の状況をご報告いたします。

昨年度は、「まちづくり」という課題とどう向き合うかを探る為、相田幸一氏、久保田一徳氏、井村久行元技監の御三方から「まちづくり」に関する話を伺いました。

話を伺い、意見交換をする中で「まちづくり」の難しさを再認識すると共に、現在新潟市が目指している将来の姿（都市像）について、漠然とした内容でしか理解出来ていないことに気付かされました。

そこで本年度は、新潟市の将来の姿（都市像）をどのように市が考えているのかを理解すべく、新潟市の基本構想・基本計画、施策等についての勉強会を月一回ペースで開催しています。

全６回とし以下のカテゴリー別に、新潟市がどのような計画・施策・政策を行っているのか、また行おうとしているのか研究しています。

（現在は第４回迄が終了しています。）

第１回　「新潟市基本構想・新潟市基本計画　にいがた未来ビジョンについて」
第２回　「都市交通」について
第３回　「景観まちづくり」について
第４回　「都市空間」について
第５回　「まちなみ保存・まちなか再生」について
※９月開催予定
第６回　「土木景観・ランドスケープ」について
※10月開催予定

企画委員会会議風景

第１回目だけは、平成27年度から平成２８年度における新潟市の総合計画「にいがた未来ビジョンについて」の、策定に関わった新潟市地域・魅力創造部　政策調整課の淡路千尋氏より話を伺いましたが、２回目以降は各担当委員がそれぞれレポートをまとめ、発表するという形式で行っています。

各委員それぞれが膨大な資料を読み込み、理解し易いレポートにまとめてくれる為、毎回有意義な勉強会となっています。

全６回を終了した後、組合員の皆様にレポート資料を何らかの形でご報告したいと考えています。

少しずつではありますが、「まちづくり」についての方向性が見えてきたように感じます。

企画委員会会議風景

技術委員会

委員長：加藤　新一

いつも技術委員会の活動にご協力いただきありがとうございます。今後の事業活動の宣伝をさせていただきます。

【建物研修会の予定】

1．会場予定　　**いくとぴあ食花**
〒950-0933
新潟市中央区清五郎401

日時は、未定ですが気候の良い時期に開催予定です。

【実務者講習会の予定】

1．日　時　　平成２８年２月５日（金）
１３：３０開演予定
2．会　場　　**新潟ユニゾンプラザ**
多目的ホール（４４８人収容）
〒950-0994
新潟市中央区上所2-2-2
3．講　演　　【木材を使った建築物の最前線】
（仮題です）
4．講　師　　**五十田　博氏（京都大学教授）**

前回は、鋼構造をテーマにしましたが、今回は、木造建築物について皆様と勉強したいと思います。
五十田先生は、新津高等学校、新潟大学建築学科を卒業後、東大大学院の修士課程を終了され信州大学、建設省、アメリカの大学等で研究をされ、木質構造では35年ぶりの日本建築学会賞を受賞されました。現在は京都大学の教授をされておられる大変優秀な先生です。（詳しくはP．６資料１）講演も大変お上手で、きっと皆様の期待を裏切らないと確信しております。日時の関係で４４８人収容のホールを用意しました。大勢の方の参加をお待ちしております。
どうぞよろしくお願い致します。

住･環境委員会

委員長：羽二生　道夫

今年の活動は『すまいづくり教室』の企画・運営と『設備委員会との共同研究』そしてこの『ＭＵＴＳＵＢＩ』の編集です。
今年のすまいづくり教室は先月市役所と契約を済ませ、現在今年の方針をどうするか回数を重ねながら検討を進めています。
今年の特徴は、市民に人気の茶話会を『住宅センター』と共同で行なう事です。建築士を交えたグループでの話し合いができる茶話会は今までどおり講座の中で対応しますが、個人的に更に詳しく話をしたい方のために場所を変えて住宅センターでも対応します。
これによって講座と話し合いの２本立ての深みのある『すまいづくり教室』になるのではないかと思われます。
さらに『すまいのお金』について今年はファイナンシャルプランナーに協力していただき資金計画・税金面について講義をしていただく予定で計画を進めています。

H26 年度 茶話会の様子

設備委員会との共同研究では、近い将来全ての建築で『ゼロエネルギー建築』が求められる時代がすぐそこまで来ています。ここでは住宅部門に限って『ゼロエネルギーハウス』に焦点を当ててどの程度の建築でどの程度の設備機器で『ゼロエネルギーハウス』が実現できるのかを研究してみたいと考えています。
ＭＵＴＳＵＢＩの編集では読みやすい内容を目指して編集していきたいと考えています。

業務委員会

委員長：涌井　勝治

平成27年度も半期を過ぎようとしているところで、今までの業務委員会の状況を報告させていただきます。

8月末日現在、業務委員会は委託物件の減少で2回の委員会しか開催できませんでした。
新規物件は皆無ですし、耐震関連業務も終わりに近づき診断・補強設計・補強工事監理業務が激減してきています。

また発注者である、市当局においては改修のみの設計は競争入札に回されることが多くなり、当組合への随意契約が非常に難しい状況になってきたことが受注減少の要因であると考えています。

そんな状況のなか、執行部や役員の皆様の努力により、新規の学校大規模改修設計を木戸中学校等6件、受注することができました。
この委託物件はすでに担当者も決まり、設計作業が進行しているところです。
本委託物件の受注にあたり、組合として改修工事の工区や改修内容・手法等の検討会を開き、発注者に前向きな提案をしてきたことが理解されたものと思います。
膨大な調査資料や検討書を作成いただいた皆様に改めてお礼申し上げます。

今回、受注した大規模改修物件は２～３年に渡る事業であり、初年度で全体の改修計画を立案するものです。
先の改修工事設計講習会でご承知いただいている事とは思いますが、今までの組合委託物件の進め方とは異なる手法です。

当初の設計を担当される方には作業量が、いままでの改修工事より多く、提案や検討事項も多く時間を要する作業を進行していただいていること思いますが、宜しくお願いします。
また、委託物件個々に改修内容に課題もある事と思いますが、他物件の改修内容も共有し、より良い、一貫性のある設計につなげて頂ければと思います。

今後、当初全体改修計画を立案した担当者と次年度、次々年度の設計担当者をどの様に関連付けて担当者を選考していくか課題も残りますが、業務委員会として公正な担当者選考をしていきたいと思っていますので宜しくお願いします。

結びに、来年度からも大規模改修設計委託を当組合で受注できますよう、今回の大規模改修設計成果品がより良いもので納品できます様、お願いしつつ業務委員会報告と致します。

構造委員会

委員長：梶井　照仁

7月31日（金）に、新潟ユニゾンプラザで「2015年版建築物の構造関係技術基準解説書」の講習会が開催され、構造技術者169名の多くの方々が参加されました。それまでは「2007年版の技術基準解説書」でしたので、8年ぶりの改正になります。構造計算適合性判定の審査はこの「技術基準解説書」に基づいておりますので、構造技術者としては必須の図書になっています。この技術基準解説書の「刊行に寄せて」の最後に、「構造設計では、未知の部分が存在する自然現象を相手にものづくりを行うわけですから、十分な余裕を設けることの大切さも忘れてはなりません」と記載されています。基準法に基づいているから絶対安全であるとは言えないと言うことでしょう。

さて、5月22日（金）に、第32回の通常総会が開催され、平成27年度の事業計画が報告されました。10年間ほど続いた耐震関連事業も耐震補強工事監理などが若干残るもののほぼ終了することから大変厳しい状況になることが予想されています。しかしながら、組合としては、新潟市にとって「必要な設計集団」として、また、市民にも愛される「職能集団」として、「新潟市のまちづくり」に積極的に関わっていきたいと願っております。構造委員会としても「安全・安心」を念頭におきながら活動したいと思います。

6月23日（火）の合同委員会で報告した構造委員会の活動報告と活動方針は以下のとおりです。

1．構造設計技術向上のための活動
2．構造工事監理業務に伴う調査と研究
3．次世代構造技術者との意見交換開催
4．構造関係の相談窓口の設置

今後の活動計画の中には、「大規模改修に伴う構造検討（便所改修および図書室移動等に伴う補強検討）」、「非構造部材の構造検討（天井および間仕切壁等の補強検討）」などがあります。皆様のご協力をよろしくお願いします。

（非構造部材の参考資料）

最後に、不同沈下に伴う相談が2件ありました。いずれも地盤の悪い所に建っている建物です。

1．本体建物とはエキスパンションジョイントになっている平屋建ての小さな自転車置場です。基礎はべた基礎です。本体建物とは逆側に不同沈下しています。原因は、本体建物の基礎は杭基礎であり、べた基礎の一部が本体の基礎と干渉しているためです。（写真1、写真2：建物傾斜角1/64）

写真１（駐輪場の不同沈下）

写真２（駐輪場の不同沈下）

2．本体建物とはルーズホール（縦長）で繋がっている平屋建ての外部階段です。基礎は布基礎です。本体建物とは逆側に不同沈下しています。ルーズホールが十分機能しなかったためです。（写真3：基礎傾斜）

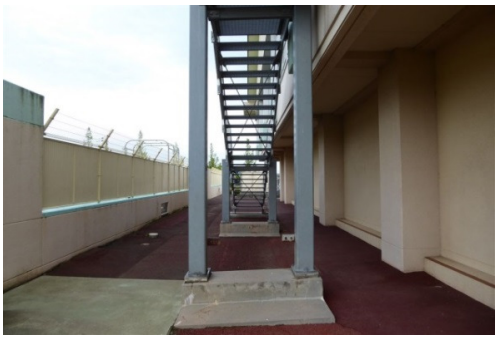


写真３（屋外階段不同沈下）

地盤の悪い所に建つ建物は、十分気を付けて設計して頂きたいと思います。

設備委員会

委員長：伊藤　　徹

今年度、設備委員会では新しい設備技術の紹介として、以下の内容について調査し、紹介していくこととなりました。

燃料電池について（水素社会の実現に向けて）

1．燃料電池の概要・構造
・概要
・構造、方式の比較

・普及への課題、実用化状況

2．水素社会の実現に向けて

・水素の供給

水素は、化石燃料、水、副生ガス、木質バイオマス等、各種資源から製造できる。

→　日本にとっては有効である。

・水素を貯留する設備

・水素ステーション

3．燃料電池システムの紹介

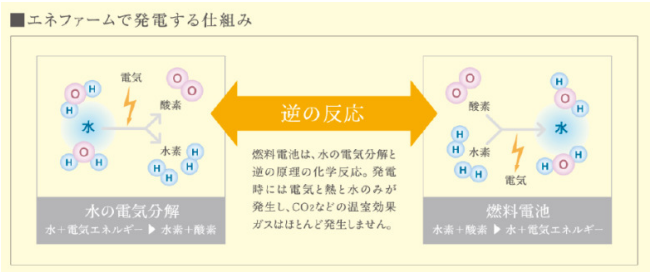
①エネファーム（家庭用燃料電池）

②業務・産業用燃料電池

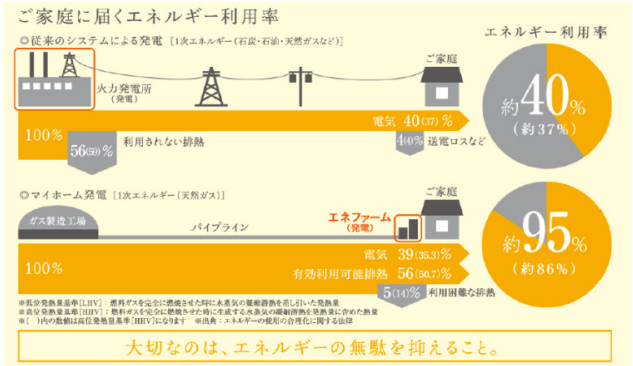
③燃料電池自動車・バス

参考までに現在、最も身近な設備となっているエネファームを例として、燃料電池の基本的な部分について紹介します。

（例１）水素と酸素で電気とお湯をつくる。
燃やさない発電、エネファーム



（例２）化石燃料を使い発電する場合のエネルギー利用効率から見た場合



次世代委員会

委員長：斎藤　　学

今年度、次世代員会で力を入れて活動している事業『新潟市職員と組合若手社員のワーキンググループ（WG）運営及び研究』についてご報告致します。

現在、WG研究は新潟市職員側21名、建築士４団体側13名、計34名のメンバーで下記の３つの課題に取り組んでおります。

【スペック検討】　公共施設のトイレの仕様研究
～求められているトイレを目指して～

【ＦＭ】　公共施設の多機能化・複合化の研究
～ファシリティマネジメントの視点から～

【景観】　歴史的まちなみを活用した地域の活性化
～歴史的建造物（町屋）の活用案・保全策について～（旧白根地区商店街）

番匠建築設計工房 番場さん発表

７月10日には、中間報告会を行い『新潟市建築計画・設計技術研究会』メンバーの方々をはじめ、新潟市建築部各課の課長様、当組合の皆様にもご参加頂きました。その際には各グループの取り組みについて、貴重なご意見やアドバイスを頂き、大変ありがとうございました。報告会の後は、懇親会も行われ新潟市職員の方々と親睦を深める事ができ、次世代委員にとっては、普段の業務とは違った人間関係を築く事が出来る良い機会となったと思います。

今後は研究成果をまとめ、来年1月の最終発表会にてご報告を行いたいと考えておりますので、組合員の皆様の多くのご参加をお願い致します。

質疑応答風景

㈱S･U 建築設計 渡辺さん発表

ワーキンググループ中間報告会風景

資料１

H28.2.5 実務者講習会　講師Profile

五十田　博（いそだ　ひろし）
京都大学　生存圏研究所　生活圏構造機能分野　教授　博士（工学）

■　略歴

1965年　　新潟県生まれ
　　新津高等学校、新潟大学建築学科卒業
最終学歴　　1990年　東京大学大学院工学系研究科修士課程修了
1992年　　東京大学大学院博士課程中途退学
1992年　　信州大学工学部助手
1997年　　建設省建築研究所主任研究員
2004年　　信州大学工学部准教授　2011年教授
2013年　　京都大学生存圏研究所教授　現在に至る

（日本大学理工学部建築学科非常勤講師、カリフォルニア大学サンディエゴ校在外研究員、ニューヨーク州立大学バッファロー校客員研究員、京都大学客員准教授などを歴任）

■　研究分野

木造住宅の耐震安全性に関する研究　中層大規模木造建築の開発と性能評価　新材料や新たな構造システムの開発と構造性能評価　など

■　社会活動

国土交通省　長期優良住宅化リフォーム推進事業、サステナブル建築物先導事業（木造先導型）評価委員会、ほか
文部科学省　学校施設の耐震化に係る技術的事項に関する協力者会議
日本建築学会　木質構造運営委員会主査　ほか　各種委員会多数

■　主な論文

RC造と木フレームを平面的に併用した構造の振動台実験、日本建築学会構造系論文集、No.697, 401-410、2014年3月
余震や繰り返し加力に対する劣化を制御した壁を組み込んだ木造住宅の振動台実験、日本建築学会構造系論文集、No.698, 491-498、2014年4月
Experimental Seismic Response of a Full-Scale Six-Story Light-Frame Wood Building、ASCE,2010

■　受賞

2011年度　日本建築学会賞（論文）（社）日本建築学会（木質構造では35年ぶり）
2011年度　Raymond C. Reese Research Prize　ASCE American Society of Civil Engineering

作品紹介

「 新潟市立沼垂小学校 」　㈲三善建築設計事務所

■ 設 計 趣 旨

沼垂小学校の校舎は、施設の老朽化が著しいことから、地域に開かれた施設として教育環境の改善を図る目的で校舎を全面改築することになりました。

140有余年の歴史を持つ小学校は、地域の緑化環境の拠点となっています。中庭、前庭を中心とした広い敷地に歴史を感ずる多様な樹木が多く、計画植栽との対峙と、幼稚園や神社など周辺施設の対応に配慮し、昔ながらの土地に溶け込む提案も必要とされました。

■ 計 画 概 要

・配置計画

既存の樹木を活かし、校舎の各所から児童を見守る大人の目が届き、既存の屋内体育館との接続が無理なくでき、且つ、仮設校舎を建てることなく改築が出来る様に敷地の南側に校舎を配しました。校門から続く長い『杜』を抜けると校舎の入口が開けて見える様にし、『杜』は隣接する幼稚園の園児や、地域の人々の憩いの場としても利用される様に計画しました。また、駐車場をグラウンド側に配し、歩車分離を明確にしました。

（杜からの校舎）

（昇降口からの杜）

・平面計画

１階の中心部には昇降口につながる多目的ホールを配し、そこを起点に左右の廊下から各教室に向かうことになります。また、このホールは可動間仕切り壁で区画でき、多様な集会に利用できます。下校時などに全校児童が集まれる場所ともなります。

２階の中央部には図書館とコンピューター室が一体となれるよう配し、２階・３階の各教室から近く、児童が気軽に利用できます。教室は廊下拡張型の多目的ホールと一体化し、学年単位でまとまった学習も容易にできます。尚、各教室にはベランダを設け日差しの直射を和らげ、その内装は木を多用し、人にやさしく、暖かい雰囲気を持たせています。

屋内体育館とは校舎の２階で渡り廊下を介して接続され、教室からの移動距離・移動時間は短くなります。

玄関・多目的ホール

渡り廊下

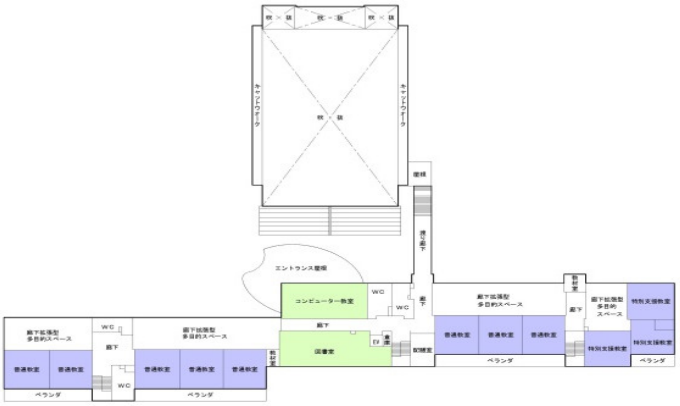
図　書　室

コンピューター教室

普通教室

廊下拡張型多目的ホール

１階平面図



２階平面図

■　建　築　概　要

- 建設場所　新潟市中央区鏡が岡５番５号
- 用途地域　第一種住居地域
- 防火指定　準防火地域
- 敷地面積　24,717.63 ㎡
- 建築面積　2,675.39 ㎡
  （校舎＋渡り廊下＋エントランス庇）
- 延床面積　5,862.18 ㎡（校舎＋渡り廊下）
- 構造規模　校舎　ＲＣ造　地上３階、
  渡り廊下　Ｓ造　地上２階
- 主要外部仕上げ
  屋　根　塩ビシート防水 S-F2
  外　壁　複層仕上塗材 E
  開口部　アルミサッシ
  （Low-Et5、学校用強化ガラス t4）
- 主要内部仕上げ
  床　複合フローリング t15 直貼り、
  ビニル床シート t2.5
  壁　腰下：杉板張り t9
  腰上：シナ合板 t5.5、
  板付コルクボード
  天　井　GB-Dt9.5＋木製格子（GWt50）、
  化粧岩綿吸音板 t9 直張り
- 電機設備
  受電方式　高圧受変電方式
  防災設備　誘導灯　非常放送　自動火災報知機
- 空調設備
  冷暖房方式　GHP
- 衛生設備
  給水方式　受水槽＋加圧ポンプ
  排水方式　公共下水道
  消火設備　屋内消火栓設備
  ガス設備　都市ガス

■　設 計 ・ 監 理

- 基本実施設計　意匠　㈲三善建築設計事務所
  ㈱ＧＡ設計
  江部建築設計事務所
  ㈲鑑建築研究所
  構造　㈱建構造研究所
  堀川建築設計事務所
  電気　㈲システムＫ
  ㈲総合設備設計
  機械　㈱伊藤設備設計
  ㈲総合設備設計
- 監　理　意匠　㈲三善建築設計事務所
  構造　㈱建構造研究所
  電気　㈲システムＫ
  機械　㈱伊藤設備設計

事務所紹介

（株）ノア設計事務所

弊社は昭和５８年５月に会社を設立致し、今年で３３年目を迎えました。創業時は堀之内南に事務所を構え、その後、紫竹山のテナントビルに移転しました。紫竹山では約２０年間業務を行っておりましたが、仕事量の増加に伴い平成２０年に桜木ＩＣから程近い神道寺南１丁目の木造２階建の建物を全面的にリフォームし移転しました。

現在スタッフは社長を含め６名の建築士、２名の事務職の計８名で運営しています。年齢構成は２０代～６０代と各世代バランス良く人材が揃っており、時には厳しく時には楽しく、仕事上の様々な意見交換を行い日々設計業務に取り組んでいます。

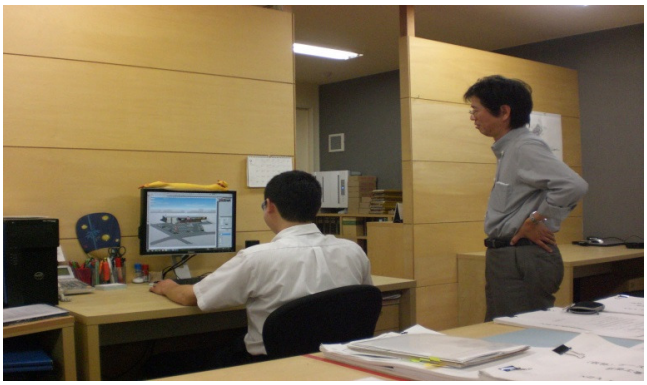
スタッフの業務スペースは、仕切りを挟んで来客・打合せスペースとなっており、お客様から仕事場が見えるオープンな作りとなっています。お客様の中には、スタッフの隣の席で打合せやお話しをして頂くこともあり、個人的には、そこから得られる様々な情報（色々な雑談も含め・・）から学ぶことも多く、お客様とスタッフの距離が近く感じられることはありがたいことです。

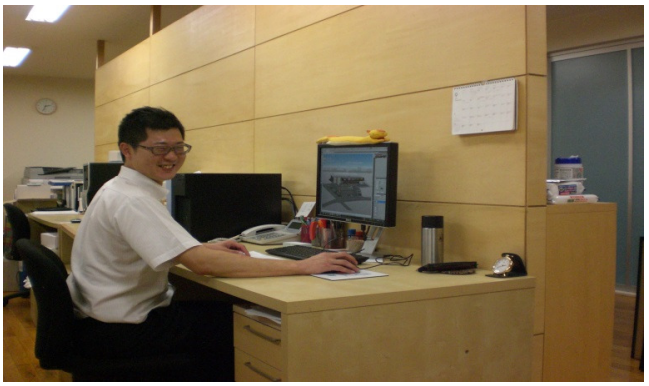
また、ここでは写真の掲載を控えますが、業務机の上は資料の山となることもしばしば・・、中には書類の重さに耐えられず、天板が反り曲がったかわいそうなデスクもあり整理整頓・収納スペースの確保は今後の課題となっています。

主な業務内容は、商業施設・事務所・工場に携わる設計が多く、５年前位からは高齢者施設の依頼も増えてきています。その他児童福祉施設・診療所・住宅等、多種に渡り設計を行っています。
今後は公共施設についても、今までの経験を生かしより多く取り組んで行きたいと思います。

私は、入社してまだ６年と年月は浅く経験不足ですが、お客様の為に、これからもより良い設計ができるよう、日々努力して行きたいと思います。

組合員の皆様には、今後ともご指導のほど宜しくお願い致します。





社内風景

趣味のひろば

Ｊ・ツカサ設備設計　　桑野　仁司

突然の原稿依頼、無趣味のわたくしとしては、晴天のなんとやらで、当惑以外の何者でも有りませんでした。

若かりし頃には多少の趣味は有り、テニス・野球・写真・車・音楽等は少なからず興味が有り傾倒した時期も有りました。なにせ三十数年も前の事、遠い昔の感で忘却のかなたです。

最早、スポーツをするほどの体力・気力はなく、写真とて業務上の現地調査などの写真撮影くらい。車に至ってはほとんど仕事に使うのみで、ドライブなどの用には全くたっていない状況です。

しかしここで一考、これでは、余りにも無意味な、夢なき人生になるのではと原稿を書きながら、はた！と気付きました。齢い七十を間近にし、遅きに失した感はありますが、これを良い機会と捉え、多々ある趣味の中から最も実現性の高い趣味を選びたいものと考えるに至りました。

テラス植木

日常の生活をして行く上で「悩み」や「不安」は尽きませんが、何かに没頭し、楽しめる、そんな趣味などが有ればもっと充実した時間も得られ、心の安らぎも得られるのではないでしょうか。

そこで、「趣味探し」をすべく、以下を課題とし推し進めることといたしました。

大別的には、からだを動かす「スポーツ系」、心の安らぎ等をえられる「文化系」。選択枝としては、時間は自由か、グループか個人で楽しむか、経済的許容範囲内か、社会性の有無、コレクション性、創作・製作物、演劇・スポーツ観戦、学問・語学などなど。

具体的には、旅行、ドライブ、食グルメ、映画鑑賞、音楽鑑賞、楽器演奏、カラオケ、温泉めぐり、写真、園芸、ウォーキング、ジョギング、ヨガ、などなど。

以上を選択枝とし、大別的には、スポーツ系、文化系から各々、選択枝からは個人で楽しむものとし選択を考えました。

具体的に選択したのは「楽器演奏（ギター）」・「写真撮影」・「ウォーキング」に絞り、実行することといたしました。

これらの趣味でこれからの生活の糧とし、決して力まず、その趣味を楽しみ、これからの人生に少しでも希望を持てるよう、精進していきたいと思います。

玄関先の植木

取敢えず趣味の初動として、我が家のデブ猫（体重10ｋｇ、身長55ｃｍ）の写真撮影、以前使っていたギターをこれからの趣味研鑽の道具として撮影いたしました。

以上、依頼原稿の趣旨とはだいぶ掛け離れたことと思いますが、このような機会を与えて下さったことに深く感謝いたします、同時に、この雑文を読んでいただく諸兄にたいしましては、畏敬の念にて感謝申し上げます。

我が家のデブ猫
（体重 10ｋｇ、身長 55ｃｍ）

自慢のマイギター達

ウォーキングの様子１

ウォーキングの様子２

表紙紹介

表紙の写真：フィッシャー邸（1960～1967）

この建物はアメリカの建築家ルイス・カーン（1940～1974）の設計による住宅です。

フィラデルフィアの郊外にある敷地（8,100㎡）は緩い北東斜面にあり、その先には小川が流れ林に囲まれてすばらしいロケーションでした。

カーンはこの頃多忙を極めソーク研究所やブリン・モア大学寮、そしてインドやバングラデシュの仕事を受注し忙しい中9つの案が提出されたようです。最終的に決まった案は正方形を45度傾け、２つのキューブが合体した建物です。それぞれで異なる景色が得られ、時間の経過と季節の変化により異なる光が部屋に差し込む建物が完成しました。
設計が終わるまで4年そして工事期間に3年の時間が経過したようですが、予定をオーバーする工事費についてフィッシャーさんは頭を悩ましながらも納得できる件につていは了解していたようです。
フィッシャーさんは世界的な建築家が設計してくれた事を知っており、建物にはとても満足されていたようです。特に糸杉の外壁のメンテナンスには力を入れ建物を大切にされていたようで43年が経過しているようには見えませんでした。

フィッシャーさんは現在お亡くなりになり奥様も老人施設に入居され、建物はナショナルトラストに寄贈され見学できるように準備中との事でしたが、内部を見せていただきました。建築を目指す若者や建築家に見てもらえる事を願っていたようです。
そこには生活していた品々がそのままの状態で昨日まで生活していたような雰囲気でした。冷蔵庫の扉には家族の写真がたくさん貼り付けられてやさしい母親の姿が想像できました。
リビングの造りつけの椅子に腰掛け半円形の石貼りの暖炉を眺めていると、まるでカーンがそこにいて我々に建築を語ってくれているかのようでした。

表紙撮影（2010年）：住・環境委員会　委員長　羽二生道夫

編集後記

編集後記の為、挨拶は省略させて頂きます。

この睦びが配られるまでに多くの人の手が掛かっていることを知り、良い勉強になっております。

最近、声を出して文を読み上げることなんてなかったのですが、睦びの編集時（最終確認時）に、全ての記事を数人で朗読します。
朗読をすることで、少し変な部分や句読点等の間違っている部分が分かり訂正していきます。
その時に漢字が読めなかったり、読み方を間違ったりで焦ってしまいます。
普段メール、携帯での対応ばかりしていると、こういう場面で無知がばれてしまうのは残念です…。
皆様もＰＣや携帯での変換等のしすぎには注意して下さい！

住・環境委員会では、睦びの表紙写真を随時募集しております。匿名とすることも出来ますので、事務局までお気軽にお送り下さい。

編集後記：住・環境委員会　委員　木下裕貴